

かながわ子ども教室

ニ ュ ー ス 第71号

代表交代のご挨拶

白幡 善雄



今年度より大竹壽利さんから、「ダイヤかながわ交流会」の第10代として、代表役を引き継ぎました。副代表には、新しく縣忠雄さんにご就任頂きました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、皆様にはいつも交流会活動にご理解とご協力を頂いておりますこと、大変ありがたくお礼申し上げます。

交流会も1997年9月に発足しましたので、今月がまさに創立20周年の記念の年になります。その節目に当たり、9月21日に関係の皆様にご参加頂き、「創立20周年記念パーティ」を横浜国際ホテルにて開催するとともに、1年以上時間をかけて多数の皆様のご協力により編集しました「20周年記念誌」を発刊することができました。これらに携わって頂いた会員の皆様に、あらためて感謝申し上げます。

私は、新谷昌隆さんからお声をかけて頂き、2004年春に交流会に入会いたしました。やはり定年を迎え、どのように時間を過ごすか、何の準備もありませんでした。先輩諸氏が楽しくやっていると伺っただけで入会したのが実情です。その後、運営委員や子ども教室の担当をやりながら、13年が過ぎました。

入社から定年までの約40年の実働時間と比べ、定年後の自由に使える時間が、ほぼ同じ乃至はそれ以上あると言われております。その自由時間がどう充実し、楽しく過ごせるか、輝く時間となるかがポイントになると思います。そのためには、当交流会は「健康で充実した人生の交流の場」として「定例会・分科会・同好会」等があり、「社会貢献活動の場」として「かながわ子ども教室」があり、会員それぞれができる範囲内で積極活動をしており、それらが自由な時間の充実の一助になっており、まさに定年後の「第三の居場所」となっていると考えております。

今後も、楽しい肩の張らない交流会となりますよう頑張るつもりです。皆様の絶大なるご支援を心からお願い申し上げます。

「ねんりんピック秋田2017」に参加して

NPO法人かながわ子ども教室 松下 恵造



厚生労働省、秋田県、長寿社会開発センターが主催するねんりんピック秋田2017に参加しました。ねんりんピックの正式名称は全国健康福祉祭で、60歳以上の高齢者を中心として、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることができるスポーツ、文化、福祉の祭典です。1988年の第1回兵庫大会以来毎年開催され、今大会で節目の30回目。そして、かながわ子ども教室としては2008年の鹿児島大会での初参加以来連続の参加で、こちらも節目の10回目となります。

我々は秋田駅西口に近い「エリアなかいち」にある「にぎわい交流館（3F）」で開かれた協賛イベントに参加し、9月9日（土）～11日（月）の3日間「おもしろ科学実験教室」を出展しました。参加者は「かながわ子ども教室」から17名、共催参加された「きらめきライフ多摩」から3名の計20名で、出展科目は海洋、光学、電気と「きらめきライフ多摩」の水族館の4つです。

詳細報告の前に、幹事は今大会参加の事前準備として以下の3点に注力してきたことを、今後のために記載します。

(1) 参加目的：一人でも多くの子どもたちに「おもしろ科学実験教室」を体験してもらい「科学の面白さ」を教えるを実現するために、事前アピール等集客方法を検討すること。

①「おもしろ科学実験教室」のチラシの作成に当たり、秋田県キャラクター「んだっち」の使用許可をいただいてチラシ内に配置し、最終的に900部の印刷を手配しました。



②秋田県児童館館長（放課後児童クラブ=学童保育を統括する秋田県児童館等連絡協議会の事務局）に直接電話して、チラシを市内88か所の放課後児童クラブに各1部の配布と県児童館内での配布（計200部）をお願いしました。

③秋田県との事前相談時に、「秋田駅からにぎわい交流館前までの人の誘導は県に任せて欲しい」との意気込みだったので、我々は交流館の中（3F）への誘導に注力することとし、会場配布用のチラシを700部と多めに準備しました。

(2) 3泊4日の長丁場をできるだけ心地よくして、参加者の体力を維持し、親睦を深められるようにすること。

①ホテルの予約（目標1泊6000円）：6カ月少し前の電話予約で秋田市内の主な11ホテルが全て満室の時、「東横インでは会員になれば6カ月前に電話/ネット予約可能」を発見したので、即入会して3月8日から3日間、夜中の0時に電話予約を試みました。9月8日と9月10日は20名分、9月9日は1名分を確保。9月9日の残り19名分は3月9日午前中に2回のネ

ット予約にて確保。全てが目標料金以下。結果は運が良かったとしか言いようがありません。

②大会前日の秋田市内観光：白幡代表が事前に秋田在住の同窓生とご主人・三浦亮氏（元秋田大学学長）を訪問して現地調査を実施され、秋田大学鉱業博物館（ガイド依頼済）～久保田城址（ガイド依頼済）コースの計画立案と夕食候補の紹介をしていただきました。

③夕食処：白幡代表のアドバイスを参考にして、郷土料理の「きりたんぼ料理店（1日目）」と「比内地鶏料理店（3日目）」を手配し、カラオケ店の事前調査も行いました。

(3) その他として、

①長寿社会開発センターにお願いして、教材の宅急便送付費用のご支援をいただきました。

②秋田県にお願いして、公式業務として宅急便の前日受取りと保管の段取りをいただきました。

初日9日は朝9時に秋田駅東口の東横インを出発し、駅を横断して西口から会場のにぎわい交流館に向かいました。沿道には物産品や食べ物などのテントが連続配置されており、にぎわい交流館への人の誘導の仕掛けと分かりました。交流館3Fの会場に到着した時、机や椅子の必要数の準備、送付教材の保管、電源配線の養生支援などを見て秋田県の対応の良さを感じました。10時開始で、最初の1時間の来場者数は35名。次の1時間は74名とかなり低調なので、水族館の浮沈子ペットボトルとチラシを持って交流館前で勧誘を開始しました。またエリアなかいちの総合案内所に行き、「来場者が少なく困っている」と伝えたら、総合案内パンフレットと一緒に当方チラシを積極的に配布していただきました。これらの対策で午後からは来場者が増え、初日の来場者数は何とか523名となりました。

10日は開始直前に短時間の雷雨があったが、幸いにも天気は直ぐに回復し、開始時間の10時前から来場が始まりました。日曜日ということもあり1時間に130名を超えるうれしい状態が続きました。ただし、外のステージで「小島よしお」などのショーが終了した時に来場者が集中したので、その時は来場者の交通整理に苦労しました。また、浮沈子ペットボトルにより親子を勧誘していることもあり、水族館では一時行列ができました。結果、2日目の来場者数は946名となりました。3Fへの人の誘導策の中で、①総合案内所をお願いしてチラシを配布していただいたこと、②当方メンバーにより浮沈子ペットボトルの実験デモとチラシ配布をしたことが有効でした（来場の親子への聞き取り結果）。また、秋田県によれば、外のステージにいる司会者に交流館の中の協賛イベントについて紹介してもらう誘導策も打たれたとのこと。我々の出展場所の奥に大会スタンプラリーの捺印場所があり、これも人の誘導の仕掛けと分かりました。捺印した親子の半数以上は教室に立ち寄りいただけました。



11日は月曜日なので、運動会などの代休日に来てくれた小学生も少しいましたが、殆ど未就学児のみの来場で低調さは止むを得ず、3日目は合計264名。これで3日間合計の来場者数は1733名となりました。この数字は、交流館の3Fという会場場所のハンディを秋田県と我々双方の集客努力により克服した結果であり、立派な成果と言えます。秋田県スタッフのご努力とご支援に感謝

いたします。また、3日間の運営にご協力いただいたサポーターの皆様へ感謝いたします。

次に来場者のトピックスを紹介します。

- ①小学校3年生の生徒6~7人を引率していた先生に声をかけた時、あまり時間がないからと言っていたのが、子どもたちの熱意に押されて来場し、最後には先生が夢中になり、時間を忘れていたようでした。最後に玄関で「いかがでしたか」と声を掛けたら、「とてもよかった、楽しかった」と言ってくれました。
- ②海洋教室にて、輪ゴムを切ってしんかい艇が浮いたのは「おもりが落ちたからだ」と、こちらが説明する前に自分から言った低学年の児童が2~3人いて、観察力に感心しました。また、「しんかい6500のペットボトル模型を自分で作りたい」という児童が3人いたので、いただいた住所に後刻マニュアルを郵送することにしました。
- ③勧誘のために浮沈子ペットボトルを持って動かしていると「あっ浮沈子だ!」と言った子どもが1人、「友達が夏休みの自由研究でやっていた」と言ったのが2人、「この前、学校で教わった」と言ったのが1人おり、いずれも他県ではなかった反応でした。
- ④「秋田にもこんなボランティア活動をする方がいたら良いのにねえ」と言われた母親が4人おられたが、我々のねんりんピック参加のもう一方の目的：教室活動の楽しさ・面白さをアピールして同好の士を見つけることは残念ながらできませんでした。

ねんりんピックに初参加された新井会員、糸井会員には今回の経験を生かして、是非次回以降も戦力になっていた
だきたいと思いま
す。また、ダイヤ
かながわ交流会か
ら特別参加された
秋田県ご出身の田
原会員は、事前に
横浜地区での海洋
教室にて実習をし
ていただいたお陰
で、初日から十分
な戦力としてご活
躍いただきました。



最後になりました

たが、我々の教室にダイヤ財団から樋渡常務理事、長寿社会から河村理事長、薬師寺部長、秋田県健康福祉部（推進室）から保坂部長、鼎主任、元秋田大学学長・三浦ご夫妻、来年度開催の富山県厚生部（推進室）から福田主事が来場されたことを報告します。

（追記）ニュース発行直前に秋田県・県 麻美主任よりお礼のうれしいメールが届きましたので紹介します。「自費参加でも秋田の子ども達のために来ていただいたこと、心から感謝いたします。おもしろ科学実験教室ですが、秋田の子ども達の心にも強く残ったようです。うちの子ども達も、

知り合いの子ども達も楽しくて2日間足を運んだとのことでした。個人的にはもっともっと多くの子子ども達に来て欲しかったです。」

＜こどもの科学・暮らしの教室＞（勝浦）

教室活動の要旨は以下の通りです。

① 教室開催順調に推移

平成29年4月から8月までの教室開催回数は、「たのしい科学教室」が51回（昨年45回）、「たのしい暮らしの教室」が5回（昨年7回）、フェスタ参加が1回（昨年1回）、合計57回（昨年53回）と昨年を上回るペースで進捗しています。新学期に入ってから学童教室などが落ちつく6月以降では3ヶ月で47回、月間平均16回になりました。特に夏休み期間は31回開催と、猛暑の中でお盆の時期を除いてほぼ連日開催されました。

開催場所別では、児童相談所：3回、コミュニティハウス：20回、学童保育：14回、放課後キッズ：17回、はまっこ：2回、フェスティバル：1回でした。

今年度は、残念ながら新しい教室（教科）は、スタートしていませんが、反省会で厳しい意見も出すことにより、従来以上に分かりやすい教室を目指す努力を続けています。

② 全国展開

ねんりんピック秋田が本年9月9日～11日に秋田市で開催されました。詳細は別稿を参照ください。

③ ホームページ <http://kanagawakodomo.com/> ホームページ委員会を毎月開催し、ホームページの更新をタイムリーに行っています。各教室の様子を動画で紹介するコーナーを新設し、現在拡充中です。また、会員限定のページを設け、過去の映像記録や報告書などを保存することを取り進めています。